



九条はらまち

「はらまち九条の会」会報 No. 118

2009(平成21)年12月15日(火)発行



<1901年12月15日急進的自由思想家江兆民の命日。108年前のことです>

○明治の政治家、思想家。幕末の1847年四国の土佐高知藩に生まれ、1871年岩倉使節団とともに渡欧してフランスに留学。西欧の民主主義をつかみ、自由民権の理論家となる。ルソーの『社会契約論(民約論)』を翻訳・解説した『民約訳解』を発表。天賦人権論を説いた。

○著作の『三酔人経綸問答さんすいじんけいりんもんどう』(岩波文庫)では、すでに明治時代の初めに「戦争の放棄、軍備の撤廃や兵士の良民化」など憲法9条そのままの理念を主張していて驚かされます。憲法が単にGHQの押しつけなどではなく、9条の大きな水脈の一つになっていることを示しています。



家伝

群馬県前橋市で空襲を体験
私は昭和十五年生まれです。終戦の年の時は四歳でした。父親が日本通運に勤め、群馬県の前橋市に住んでいて、そこで私は終戦の年の昭和二十年八月、空襲の恐怖の体験をしました。
『空襲ケイホー!』と叫びながら、隣組の組長がメガホンを持って走り回ります。サイレンがウーウーと鳴り、私はゲートルをパーツと巻いて、防空壕に必死で走っていき、恐ろしくて震えていたことをはつきり覚えています。
クラマシンの機銃掃射で...
耳の聞こえない近くのお婆さんが道路を歩いていたらしいんです

が、それを狙って米軍のグラマバンが急降下して、機銃掃射をバババ...と。そのお婆さんの頭や足は吹っ飛んでバラバラになったそうです。
私はみんなのあとについて見に行こうとしたら、もの凄く母に叱られたことを覚えています。私の小さいときのことや戦争のことなども、どうしても母との関わりでいろいろと思い出されます。
空襲予告のビラを見て 鹿島町に引越す
その前橋に、「あと二、三日後に空襲する」というビラが空から撒かれたらしいんです。でも、



**絵描きとして
何か平和のための絵本を**
南相馬市鹿島区寺内 朝倉悠三

▲2007年の朝倉さんデザインの「はらまち九条の会」のシンボルのシール。鳩を抱く少女はもちろん、平和の象徴です。

2008年5月3日、本会など市内九条の会が行った「9条を護ろう」の新聞折り込みチラシのイラストをはじめ、さまざまな有名商品のロゴ、題字、町なかの看板、書籍の表紙絵画やイラスト・カットなど、朝倉さんの作品は数知れません。

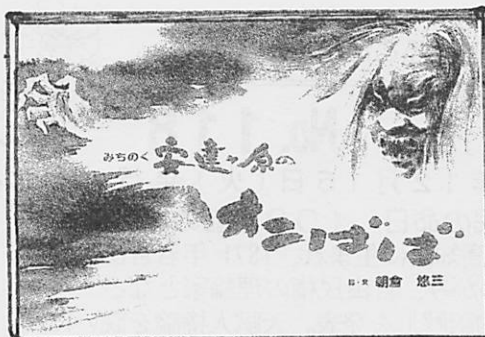
隣組長や隣組のえらい人達は「これは偽ビラだから信じちゃダメだ」と。でも、「いやこれは本当だ」というわけで、急いで母の実家の鹿島町に引越してきて、その翌日、前橋は空襲で全滅したそうです。

正しかった母の判断

また、十歳上の兄が特攻隊に志願しようとした時、母は必至になって止めたと、あとで聞きましたし、前橋から鹿島町に引越したこともそうです。が、やはり母の判断が今考えても、間違いなかったとつくづく思います。世界文学の『風と共に去りぬ』や『大地』『怒りの葡萄』などを数回も愛読していた母でしたが、母の子供を守る本能がそうさせたのでしょうか。「女は強し」です。家は貧乏でしたが、小学三年生の頃だったか、時々縁側で父の尺八に合せて、母が琴を弾いていたのを、子供心にいいもんだなあと聞いたりしていました。

憲法九条は世界遺産です

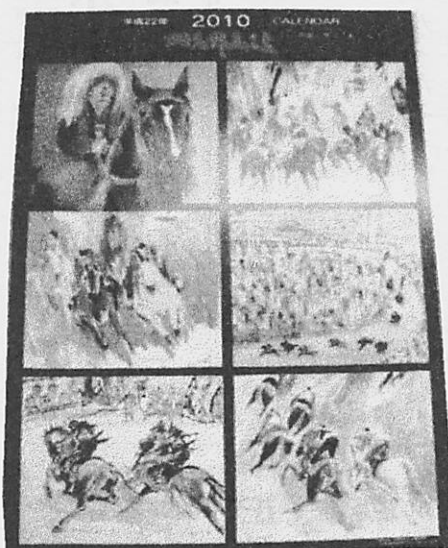
憲法九条は世界に誇るべき世界遺産で、究極のルールです。日本は無謀な戦争を仕掛けた。馬鹿さは加減というか、無知というか、なにしろ、過去の負の遺産を忘れてはいけないうる。そして現在も、アメリカだけに追従し改憲するなど、極めて危険です。自主防衛などというのは、(裏面につづく)



▲4年前、朝倉さん発行の絵本
「みちのく安達ヶ原のオニババ」
(2005年10月・福島民報社発行)

朝倉さんは作者あとがきで、次のように述べています。

「会社のため、仕事のため、一生懸命尽くしているうちに、気がついたらいつのまにかオニになっていた…なんてことも。もっとコワイのは国家とか正義の名のもとに、どんな優しい人間も、どんな立派な人間をも“殺人者”に豹変させてしまう“戦争”という魔モノでしょう。どんな時代にあっても、“本当の自分”まで流されないように、私の中のオニが暴れないように、自戒をこめながら、この絵本を書きました」



▲南相馬市かしま観光協会発行の
「2010相馬野馬追いカレンダー」
1部1,200円、道の駅などで販売していますが、朝倉さんが描き、収益は観光協会へ。大好評で増刷中だそうです。

(表のページより) 世界中でそんなへんてこな理屈は認めません。日本はまだ戦争を始める準備をしていると受けとられてしまします。しかも自衛隊の予算も世界で上位で、これとはとても怖いことです。本当に非武装で中立を守っていたら、北朝鮮もアルカイダも攻めてきませんよ。国民の大半は、憲法九条は大事にしようと思っと思っています。日米安保条約が一番のガンだと思っています。普通の善良な人間を殺人者に変えてしまう戦争

人間も、ジェントルマンも、どんな心優しい人間をも、殺人者に変えてしまう。踊らされないように。集団で戦う論理っていうものいけないことだと思う。それを国家の名の下に、正義の名の下に、宗教の名の下に、天皇の名の下に、そういう美名に隠れて、一部の人間があらわしている。国民は絶対踊らされてはならない。そういう一番してはならないことを教えるのが教育ではないか。一握りの為政者が神とか国家とかを利用して煽って、戦争を起こしている。それに国民はワーストと流されてしまう。そこを流されないように、世の中の雰囲気になれないようにするのが、ポリシー

ではないでしょうか。小さい時から絵を描くのが好きでした。私は小さい時から絵を描くことが好きで得意でした。自分で糸で縫ってスケッチブックを手作りし、飛行機やジープの絵を描いたりしていました。小学五年生の時、初めて母に油絵の絵の具を買ってもらいましたが、補充したのが、補充する絵の具が高価で、母に申しわけないし、とても厚塗りはできませんでした。子供の頃の好きがそのまま自然に美術の教師へと向かわせたのでしよう。退職後もず



つと絵を描ける幸せを味わっています。さて、あと何年？画けるものやら…。いつか「平和のための戦争をなくす絵本」をピカンは鳩を平和のシンボルとして描き、「ゲルニカ」で戦争の醜さを訴えた。ビートルズは世界の平和や、宗教がなくなれば戦争もなくなるかと歌った。まったくその通りだと思います。私は絵描きとして平和のために何ができるかを考えています。いつか「戦争をなくす絵本」…、そんな目の覚めるような絵本を創ってみたいなアと頭の片隅にはあります。(「はらまち九条の会」会員)

- ◆朝倉悠三(あさくらゆうそう)さんは、福島県美術協会会員、日本水彩画会県支部会員、日本デザイン学会会員。07年第30回全日本水墨画記念展特賞・第13回馬の絵展大賞・日仏現代美術展優秀賞など受賞。40年も馬を描き続け『相馬野馬追絵巻』や、数年間京都に通って描いた『京都祇園祭山鉾巡行絵巻』を出版。鹿島区“さくらホール”の緞帳、相馬高校や相馬アリーナの壁画、浪江町“陶芸の杜おおぼり”“JR浪江駅”の壁面陶板、大倉ダムや無線塔、パリやベネチアの風景や野馬追いの絵などの作品も数多い。
- ◆今回の「戦争体験33」は許可をいただき、「相馬市九条の会のニュース」27号から転載、加筆しました。